



# 櫛紅葉 (はぜもみじ)

発行：令和5年6月14日（水）（文責） 校長 田中 克三



カラー版は学校ホームページでご覧になれます。QRコードはこちら→



## 志望校を決めるには、まず知ることから



R5.6.6 3年高校説明会

6月6日（火）、県立高校及び私立高校の高校説明会を実施しました。時間帯ごとに県立高校12校、私立高校8校の中から関心の高い高校を一人あたり7校（県立3校、私立4校）選択し、講座形式で説明を聞くスタイルで実施。一部の県立高校は、「ハイスクールウェビナー」（高校が制作した学校説明動画）の視聴となりましたが、実際に高校の先生方から各学校の特色を説明いただく貴重な機会になりました。学校の紹介にとどまらず、自分自身の夢や目標をもつことの重要性、高校生になるまでに身に付けて欲しい心構えなど、高校の先生方からの言葉に、現在の自分の姿を振り返り、今後の生活や学習の在り方について考える真剣な生徒たちの姿が見られました。



【高校生としての心構えとは・・・】



【進行役、案内役は生徒が担当】



【ハイスクールウェビナーの視聴の様子】



【保護者の方々も真剣そのもの】

## 非日常の中で信頼を深める

～ 2年 熊本バス研修 ～

同じ6月6日、2年生は熊本へのバス研修に出かけました。出発式で、「研修の最大の目的は、活動を通して仲間との信頼関係を深め、互いに協力をする大切さを学ぶこと。五感（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚）を最大限使って熊本を楽しんでください。」と送り出しましたが、あいにくの雨。メインの熊本城から水前寺公園まで班ごとの自主研修は計画通りに進んだのでしょうか？



熊本地震からの復建を目指す熊本城の石垣の迫力、新緑に降り注ぐ雨が心まで浄化する水前寺公園、友達と頼ったご当地ソフトクリームのおいしさ…無事に帰ってきた生徒の土産話を聞くと、やはり非日常の中で得た体験は、仲間との信頼を深めることにもつながったよう、一安心です。



## 色とりどりの花で迎える

～ 1年 花いっぱい運動 ～

同じ日、1年生はクラス別に2つのグループに分かれ、体験活動を実施しました。1年2組の生徒は、年2回実施している「花いっぱい運動」を実施。

今回は、これからの季節を彩る（ペンタス、ニチニチソウ、メランポジウム、トレニア）の花苗をプランターに植える作業を行いました。降りしきる雨を避けるため、生徒昇降口前の屋根付きのスペースでグループに分かれて作業。手際よく色とりどりの花苗を植えておりました。

花苗代は、みやき町社会福祉協議会の助成金を活用。おかげで中原中の顔的存在である職員玄関までの階段が華やかになり、来校者を爽やかに迎えています。



## 地域のリーダーとして



～ 1年 第62回ナーミー活動 ～

もう一つのグループである1年1組は、中原体育館で行われた「**ナーミー活動**」に参加しました。

「ナーミー活動」は、児童生徒が地域社会の人々と交流活動等を行うことを通して、経験を広め、社会生活への適応力と豊かな心を育てていくことを目的としており、平成9年度から20年以上続いている活動です（今回が何と62回目だそうです）。

コロナ禍で、令和元年以来、活動が中断していましたが、今回4年ぶりに再開。中原小、中原中、中原特別支援学校の児童生徒と中原校区の老人クラブ、にこにこクラブ、民生委員の方々、そして、西九州大学の学生さんの参加・協力のもと、ポッチャや風船バレー等のゲームを中心としたふれあい活動を行いました。

本校では、地域とともにある学校を目指す**コミュニティ・スクール活動の一つとして位置づけ**ており、生徒には「ゲームを楽しむだけでなく、グループの参加者をまとめ、**地域のリーダーとして活動**しなさい」というミッションを与えていました。

実際は、西九州大学の学生の皆さんのサポートを受けながらではありましたが、いろいろな立場の方々と交流することに加え、班のリーダーとして活動した経験は今後の学校生活に大いに役立つものとなったと実感しています。関係者の皆様、お世話になりました。



## 幸運のキノコ？現る



コガネキヌカラカサタケ

梅雨に入り、じめっとしたうっとうしい日が続いていた5月30日(火)、校長室に置いている観葉植物の鉢植えから突然黄色いキノコが生えてきました。



調べると、**コガネキヌカラカサダケ(黄金絹唐傘茸)**という名前のキノコでした。食用ではありませんが、幼菌時の形状が仏様に見え、なおかつ黄金色をしていることから、「**お釈迦様のキノコ**」や「**幸運のキノコ**」と呼ばれる非常に縁起のいいキノコでした。

成長スピードが早く、**鑑賞できるのは1～3日程度**とのことで、「このラッキーを独り占めするのはもったいない、今のうちに…」と思い、早速、校長室前の廊下に展示してみました。やはり2日ほどで傘が開き、しおれてしまった「幸運のキノコ」。珍しそうに生徒や職員が覗き込んだり、恐る恐る触ってみたり…

植物や菌類の奥深さ、神秘さを味わうとともに、われわれ人間の幸運やチャンスも、ひょっとしたら何気ない一瞬に訪れるのかもしれないと感じる出来事でした。

## 本から心へことばのシャワー

～ 4年ぶり 読み聞かせ ～



6月7日(水)、今年度1回目となる「**読み聞かせ**」を実施しました。この活動も近年、コロナ禍で中断していたため、4年ぶりの再開となりました。

以前から御協力いただいている**読み聞かせの会「陽だまり」**のメンバー7人が来校。開始前、「久しぶりで、緊張する～」、「中学生も聞いてくれるやろか？」などと不安を口にされておられましたが、生まれればお手のもの。それぞれがセレクトしたお勧めの一冊を優しい語り口で読み上げていただきました。

地域の方々のお借りして行うこの活動も、コミュニティ・スクール(以下、CS)活動の一つです。

全ての活動を無条件にコロナ禍前に戻すつもりはありません。学校行事や諸活動の目的を見直し、学校や地域、生徒が抱えている課題を解決するために何に取り組んでいくべきかを考えて実施していく…。本校が進めている「**課題解決型**」のCS活動の**在り方**です。

「読み聞かせ」の活動は、生徒の読書離れ・活字離れが心配されている今日、子どもたちの読書への関心を高め、豊かな心の育成を図ることに有効であり、また、心理的に不安な一面を抱える生徒の心の安定にも効果がある活動だと考えております。



## なかばるコミュニティの人②

はら さとみ

原 里美 さん



読み聞かせの会「陽だまり」所属。活動は10年以上に及ぶ。きっかけは娘に読み聞かせをするために購入してきた大量の絵本を、子育てが終わり、処分してしまうのは忍びない、何とか活用できないかと考えた結果とのこと。長年、養護教諭として勤め上げた小・中学校の子どもたちと再びふれあえることに喜びを感じている。

ユニセフのボランティアとしても活動している原さんがこの日選んだ絵本は『地雷ではなく花をください』(絵:葉祥明文・柳瀬房子 自由国民社)。英訳もされている平和がテーマの絵本だ。「中学生には、やはりメッセージ性のある本を選ぶようにしています。」控えめに語る瞳の奥には、子どもたちに何が大切かを見失わずに成長していったほしいという願いが輝いていた。

コロナ禍の影響で久しぶりに中原中に訪れ、「制服が変わっていて驚きました。リボンがかわいいですね。姿勢がよく、見た目だけではわからないけれど、意思がしっかりしている生徒が多いような気がしました。やりやすかったです。」と笑顔。

